



# 「深い学び」に向かう授業づくり ～読書を通して読む・書く力をつけるために～

なぎさ公園小学校  
教諭 深田 弘子

## はじめに

低学年の時から多くの本に触れさせることは、児童の感性を育み、言葉の力を養うことに繋がります。読書の重要性を感じながら、国語科教員として、低学年の担任として一人ひとりの児童が意欲的に読書活動に取り組み、「深い学び」に向かうことができる授業づくりを目指しています。

本年度のなぎさ公園小学校の研究主題は、『グローバル社会に生きる学び合う力の育成～「深い学び」に向かうための手立ての工夫～』です。国語科では、「ことばを手がかりとして、思考力・判断力・表現力を養うとともに、能動的に学び合う姿勢を育む」「読むことを通して能動的に学び合い、想像力や言語感覚を養う」という教科目標を掲げて取り組んでいます。

## 「本が好き」なぎさっ子

本校の低学年は、副教材「100冊読書日記」に、読んだ本の感想を記録しています。1年生で50冊、2年生で50冊を目標に取り組んでいますが、進み具合には個人差が出てきます。けれども、2年生のクラスの児童に読書に対してのアンケートをしたところ、ほとんどの児童は「本が好き」と答えています。一方、感想を書くことに対しては、約半数の児童が「嫌い」という回答でした。嫌いな理由としては、「書くのが面倒くさい」という意見が多くありました。また、実際に感想を読むと、「面白かった」「よかった」という単語だけで、なぜそのように思ったのか書けていなかったり、同じ感想語彙ばかりを使っ

ていたりする児童も多くいました。児童の実態から、改めて、「書く」ということに難しさを感じている児童が、意外と多いことに気づかされます。

しかし、「深い学び」に向かうためには、「読むこと」と「書くこと」を切り離すことはできません。読書を通して、自分の考えをまとめて、言葉にできる力を鍛えていく必要性を感じます。1冊の本と向き合い、本から自分は何を感じ、何を学んだか…その思考の積み重ねを大切にしていきたいと思いました。

## 授業での取り組み

2年生の国語科単元「おはなしを読んで、感想を書こう」(6月)では、教材文「スイミー」(レオ=レオ二作)を使って学習を進めました。このお話は、小さい魚の主人公スイミーが、知恵と勇気を発揮し、仲間と力を合わせて平和な暮らしを取り戻す物語です。友だちとの関りを大切にするようになっていくこの時期の児童にとって共感を得やすく、感想をまとめるのに適した教材です。

次期小学校学習指導要領国語編の第1学年及び第2学年の目標に「言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う」とあります。

そこで、この単元を通して一人ひとりの児童につけたい力を①読書量を増やす②感想語彙(感想を表す表現)を増やす③好きな場面の理由を伝えることができるの3点としました。

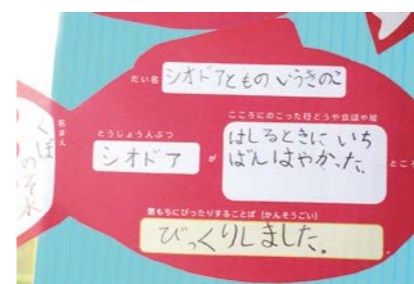
また、能動的に学び合う姿勢を育むために、①並行読書「ブックウォーク」②主体的に学ぶ態度の育成③ワークシートの工夫の3点を工夫しました。

## ①並行読書「ブックウォーク」

本単元では、「レオ=レオ二作品の感想交流会をする」というゴールを設定し学習を進めました。図書館司書教諭とも連携して、学年の共有スペースには、たくさんのレオ=レオ二作品の絵本を並べ、児童が並行読書に取り組みやすい環境を整えました。



また、「ブックウォークでビッグスイミー」と名付けて、児童は最初に自分の目標冊数を決め、その目標達成に向けて並行読書を行う期間を設けています。一冊読むごとに、「スイミー」のお話に出てくる赤い魚の形をしたカードに一言感想を書いて、大きなパネルに掲示していきます。「先生、5枚貼れたよ」「もう一冊読んでみようかな」「後もう少しでビッグスイミーが完成しそう」など言い合い、友達と達成感を共有することで読書活動に主体的に取り組めました。同時に感想語彙もたくさん使えるようになりました。



## ②主体的に学ぶ態度の育成

児童が司会、記録、タイマーの役割を担い、45分の授業を主体的に進めていきます。能動的な学び合いとなるように、ペアトークなど友だちとの交流を多く取り入れました。交流を通して、作品の見方を深めたり、自分の思いや考えを自分なりの言葉で伝えたりすることができました。また、相手の気持ちに寄り添ったり、自分とは違う意見もあることを認め合ったりしながら、協働的に学習を進めていくことができました。



## ③ワークシートの工夫

ワークシートは、書くことをいわず、児童が、学びを楽しく自ら進めていく手立てとなるように、挿絵を入れ、枠の色分けをして児童の思考が繋がるように工夫しました。



4色の枠を設け、まず、ピンクの枠にはどの場面が一番心に残ったかを書き、黄色い枠には自分の気持ちにぴったりの言葉、青の枠にはなぜそのように思ったかの理由、緑の枠には自分と主人公を比べた感想を書きました。書くのが苦手な児童も、友だちからアドバイスをもらったり、友だちの文章を参考にしたりして楽しく書き進めることができました。

単元の最後に、教材文「スイミー」で学んだことを生かして、並行読書で読んだレオ=レオ二作品の中で一番心に残った場面の感想を書き、感想交流会を行いました。

## 〈児童が書いた「スイミー」の感想文〉

私は、まぐろが一口で小さい赤い魚のみこんだところが悲しかったです。どうしてかという、小さい赤い魚たちは、大きなまぐろのギザギザの歯を見て、一生懸命逃げたけど、一匹のこらず飲み込まれたことに悲しかったです。もし、わたしがスイミーだったら、赤い魚たちと離れずにずっと仲良く暮らしていきたいです。

私は、みんなで大きな魚を追い出したところが素晴らしいと思いました。どうしてかという、一人では大きな魚を追い出せないけど、みんなで大きな魚を追い出したからです。私は一年生の時、運動会のなぎさフラッグでみんなと協力してできたから、きっとスイミーも同じ気持ちだったと思います。

## 学びの成果

授業後に児童にアンケートをしました。「色々な感想の言葉を使えるようになりました」「感想の書き方が分かって、前よりたくさん書けました」など、感想を書くことに抵抗を感じていた児童が減り、副教材「100冊読書日記」にも自分の気持ちにぴったり合う言葉を選んだり、その理由を書いたりする児童が増えました。

今後も、児童と本が繋がり、自分の考えや思いを言葉で表現しながら学びを深めていけるような授業づくりを目指していきたいと思っています。